

協和テクノ株式会社

人間社会と自然環境の距離を保ち、両方を守っていく会社

代表者名	飯川暁則
従業員数	8人
創業	1969年
住所	長野県須坂市墨坂 1-1-10
T E L	026-245-5438
事業内容	鳥獣害防除器具の製造・営業・販売
給与	募集要項を参照ください。
U R L	https://www.kyowatecno.jp/

須坂市には、周辺の環境から生まれた商品や技術を強みとする企業も多いです。須坂駅から徒歩10分ほどの距離に本社を構える協和テクノ株式会社もその一つです。

近年日本では、サルやシカ、イノシシなど野生動物による農作物への被害が問題になっています。須坂市も里へ動物たちが出没するケースがあります。その結果、農業者は経済的な損失とともに、働く意欲が減退するという悪影響にまで及んでいます。この問題を解決するため、電気柵の設置など鳥獣害対策に関わり活躍しているのが協和テクノ株式会社です。



●都会暮らしからUターンで家業へ

当日は、飯川暁則社長にお話を聞かせていただきました。「須坂市で生まれて高校まで過ごし、東京の専門学校へ進学、以降ずっと都会で暮らしていました。『須坂に戻った方がいいのか』考える事もある中で、離れて暮らす父親から『得意なパソコンを使ってホームページを作成してくれないか』と言われた時に、自分が会社に必要とされていることに気付き、29歳の時にUターンをしました」

●鳥獣対策のものづくりに携わるまで

「協和テクノの前身となる協和電工長野株式会社は、電子部品の下請け会社として父親が始めました。景気の悪化と、中国経済の影響を受けるようになった頃、農業関係者から『獣対策用のガス爆音機がうるさいので何とかならな

いか』という相談を受けました。それをきっかけに、鳥獣対策の研究が始まりました。そして、その頃に父親が他界。自分が社長になりました。」

このタイミングでの代替わりは、大変であると同時に学びの多い時期だったそうです。「下請け仕事が激減し、鳥獣害製品もまだ立ち上げ段階だったこともあり、とにかく仕事を見つけることに必死でした。まずは農業者が希望する鳥獣対策機器の製造に一生懸命取り組み、農家さん向けのホームセンターへ出向いて実演販売もしました。外に出て現場をまわったことで営業力を学ばせてもらったと思います。そんな中、とある会社社長との出会いから、防音ボックスの製造も手掛けることにもなりました。」「こういった地道な積み上げを続けて、気づけば今は、鳥獣害対策の業務も北海道や沖縄までお客様の範囲が広がりました。農場用の大きな電気柵などの、ネット経由の受注も増えていることからネットショップの運営にも力を入れています。」そこでは、鳥獣害防除に関する様々な商品を購入することができます。大きな網や、ワナ、動物を運ぶ担架のようなもの、更に長靴まで。色々な商品を見せていただきました。



社内で商品を製造する様子



作られた商品が並んでいます

●鳥獣害対策への取り組み

協和テクノの理念は「日本の農業の発展を支援していく企業」「地域社会、自然環境に貢献する企業」です。新事業分野開拓者の認証、長野県 SDGs 推進企業登録、長野県有林オフセット・クレジットプロジェクト協力企業として、研究や環境への取り組みも常に進められています。

須坂市では自然との共存を目指し農業者を守るため、地域住民・企業・市が連携し鳥獣害対策に取り組んでいます。市内の山際の地域では協和テクノのサポートで電気柵の設置がされました。それから数年が経過していますが、現在では、須坂市内での動物の出没や被害減少を達成することができています。

●協和テクノで作られているものとは？

協和テクノでは電気柵や警告音を発する機械など、寮獣害防除のための商品の取り扱いがありますが、自社商品のほとんどが社内で作られています。社内では、商品を実際に設置した際に流れる人の声や、犬の鳴き声など、何種類もの威嚇音が聞こえています。動物が嫌いな音は「大きな音」「人の声」「トタンなどを叩く音」のようです。この音はどうやって作っているのでしょうか。その時「おーい」という男性の大きな声。この声なんと「飯川社長の声」。こうやって実際の音声をサンプリングして作る事もあるのだとか。

色々な音声を聞かせていただきましたが、中には「カラスがタカに食べられている声」というものも。私がカラスだったら恐怖で絶対にその場には近づかないでしょう。

他にも、侵入者の存在を感じ取って、警告と録画、通報を報せる音声もありました。こちらは、昼はカラスなどの鳥獣に向けて音声を出し、夜間は人間に対する防犯対策に切り替わるという優れた商品です。

電気柵についての設置範囲も数百メートルから何キロメートルと幅広く対応ができ、用途も保育園で飼っている動物を守るためであったり、農場での羊の誘導用であったりと様々です。

社員の皆様は日々、長野県内を北から南まで飛び回っており、ついには知床にまで電気柵監視システムのサポートに行ったそうです。移動中、目の前をヒグマの親子が通りかかったお話を聞かせていただきました。



協和テクノ様の展示でも見かける猪頭。後ろの鹿の角は頂き物とのこと



カラス用心棒 NEO



カラス用心棒 SS

●唯一無二の商品力

電気柵を取扱う会社は複数ありますが、協和テクノ様の商品には他社商品にはない特徴があります。

まず、電気柵の遠隔監視システム『エフモスジュニア』が

ある事。柵が設置されている場所は、山間部など頻繁に出向く事が難しい場所。このシステムがあれば、電気柵に現在どれくらいの電圧がかかっているのかを、電波があればどこからでもスマートフォンで確認できます。市内の広域で設置したほとんどの電気柵にも設置されていて維持管理の軽減に役立っています。

電気柵は金網や、高さがあるタイプもありますが、高さがあると維持管理も大変です。電気柵の整備やメンテナンスも有償で受付もしてもらえそうですが、雪の季節の取り外しなど、自分でメンテナンスできるようにならなければ、扱えず不便になってしまうので、「自分で使いやすいか」も大切なポイントです。

こういった、「設置して終わり」ではなく、設置後の事、扱いやすさが考えられているところに、全社で現場の声に耳を傾け工夫をしてきた、協和テクノならではの強みと商品力を感じます。

人間の社会と野生動物の適切な距離については「とにかく近づかないこと」と飯川様はおっしゃいます。予防線を貼り、お互いに距離を保つ事。そしてお互いの繁栄を保てる事。これが叶うように、日々研究と開発、調査を続けていらっしゃいます。

●日本の農業を守る

「目の前には自然がある。挑戦するのはタダ」飯川社長はおっしゃいます。協和テクノは長野地域だけでなく全国各地で開催される展示会や市内の研究会の活動にも積極的に参加されています。

当日お話を伺って、協和テクノの商品がいかに関心の努力と研究の結果生まれたものなのかを知る事となりました。

豊かな自然に囲まれた須坂市で、協和テクノは農業者や住民が安心して暮らせる町づくりに貢献し続けます。



『エフモスジュニア』



電気柵が設置されている様子